

第5章 計画の実行に向けて ～ アクションプラン ～

5.1 行動方針と実施項目

グリーンインフラを導入した「蘭牟田池環境保全基本計画」の実現を目指し、今後、3つの行動方針を相互に連携させたアクションプランを定めます。

まずは、2025年のラムサール条約登録の20周年に伴う記念イベントの開催により、再度、蘭牟田池の魅力を発信します。その後、持続できる環境保全、ワイズユース（賢明な利用）の展開へ向けて、実現可能なものから着手します。

加えて、現在、同時進行中である「薩摩川内市東部区域（樋脇・入来・東郷及び祁答院）観光振興ビジョン」との連携も図りながら、取り組んでいきます。

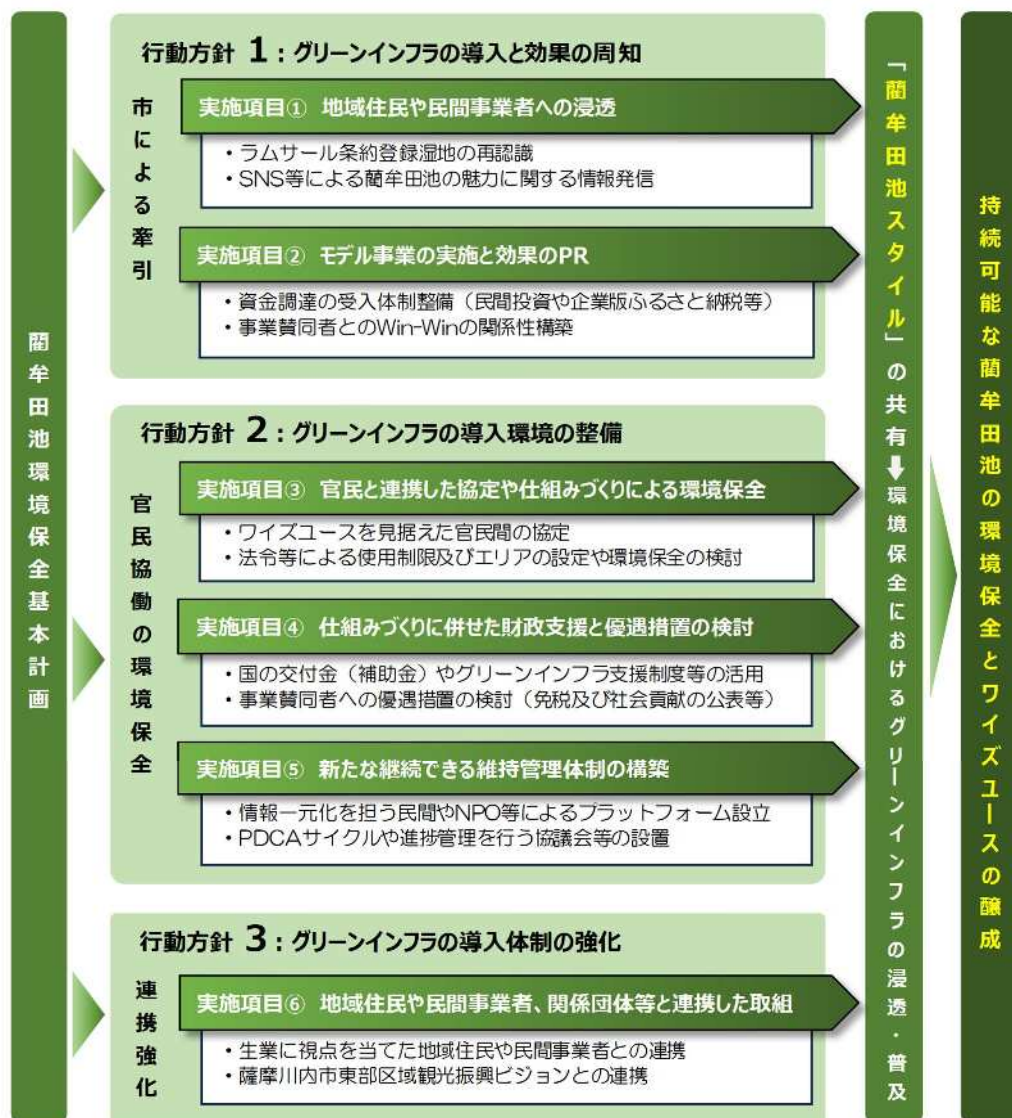
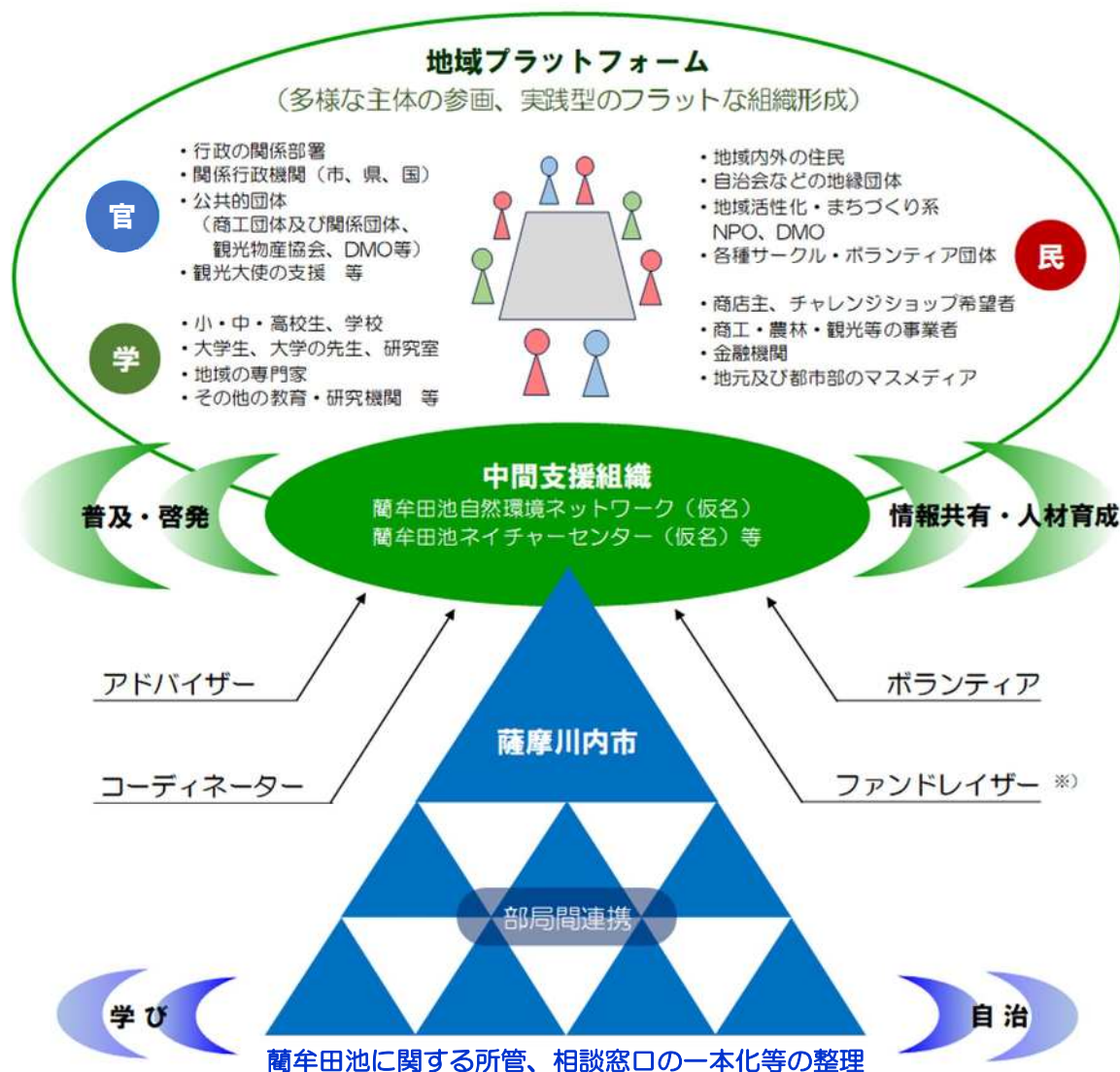


図5-1 行動方針と実施項目の体系図 ※5.1)

5.2 計画推進体制

蘭牟田池の環境保全基本計画にあたっては、グリーンインフラを有効な手段と捉え、今後、公民学の多様な主体が参画した組織形成が求められます。市は、中間支援組織等を介して、地域の実践的かつ主体的な取組を支えていきます。



※) ファンドレイザー

主に民間非営利団体での資金調達を専門に行う職業。
その役割は、「社会のために何か役に立ちたいと思っている人たち」と
「社会の課題を解決している人たち」を繋ぐことにある。

図5-2 計画推進体制のイメージ ※5.1)

※5.1)「信州まちなかグリーンインフラ推進計画（長野県）p.22 参考

<https://www.pref.nagano.lg.jp/toshikei/greeninfra/documents/gikohyo.pdf>

Column

「アウトドア用品を使う地域」に出店、過疎地を元気に ※5.2)

【モンベル会長 辰野勇氏に聞く】

1) アウトドアを生業、ポーションナルサービス（職業奉仕）

- ・ 地方自治体との「包括連携協定」締結を推進
- ・ 平常時のテント備蓄は有償、被災時のテント供給を素早く支援
- ・ 販売している登山とかカヌー等の用品を実際に使う場所への出店
- ・ 「小さい町」への出店で、地域が元気になり、平常時の利活用も増加

2) Win-Win の関係性の構築

- ・ モンベルクラブの全国会員 86 万人（年会費 1500 円で 13 億円）
- ・ その内、50 円/人（年間 4500 万円）の原資⇒モンベルクラブファンド
 - ▶ 売上に関係なく、災害や地域支援へ活用
- ・ 長野県への「企業版ふるさと納税」⇒用途が限定される目的税
 - ⇒ 登山道やトイレの整備、安全登山のための装備提供
 - ▶ ユーザーである登山者やアウトドア愛好家たちのフィールド整備



南富良野町との包括連携協定調印式



南富良野店

小さな町に北海道最大級の店舗



大山参道市場

自治体が施設整備してモンベルが一括借り受けした山の駅（鳥取県大山町）

※5.2) 「アウトドア用品を使う地域」に出店、過疎地を元気に（2018 年 12 月 4 日）日経 BP 総研
<https://project.nikkeibp.co.jp/atclppp/PPP/434148/112900035/?P=5>

薩摩川内市

蘭牟田池環境保全基本計画

～ラムサール条約登録湿地の持続的保全と陸・池・空で体験する本物自然～

【編集・発行】

薩摩川内市 市民安全部 環境課

TEL 0996-23-5111

FAX 0996-20-5570

【企画・計画】

株式会社 大進

TEL 099-239-2800

FAX 099-239-2801



さつませんだいし
薩摩川内市
SATSUMASENDAI City